

政務活動費収支報告書

平成 31 年 3 月 31 日

富士宮市議会議長 手島 皓二 様

会派名称 富岳会

代表者氏名 佐野 和彦



平成 30 年度の政務活動費に係る収入及び支出について、下記のとおり報告します。

記

1 収入

政務活動費 1,200,000 円

2 支出

項目	金額 (円)	主たる支出の内訳
資料作成費	0	
資料購入費	1,875	書籍購入
会議費	70,720	研修旅費、参加費
事務費	0	
調査旅費	211,360	視察旅費
その他経費	3,000	お土産代
合計	286,955	

3 残額 913,045 円



平成 30 年度 政務活動費現金出納簿

(単位:円)

月	日	項目	内容	収入金額	支払金額	残高
4	25	政務活動費	富士宮市長から (平成30年度分政務活動費4人分)	1,200,000		1,200,000
7	13	調査旅費	7/17~7/18 (株)北陸精機・金沢市 行政視察		211,360	988,640
7	16	その他の経費	(株)北陸精機・金沢市 土産代		3,000	985,640
8	17	会議費	8/21 自治体財政研究会in丸の内に参加		15,220	970,420
8	21	会議費	研修参加費		20,000	950,420
12	26	資料購入費	書籍代		1,875	948,545
1	15	会議費	道の駅災害時支援事業研修会参加 旅費		28,840	919,705
3	12	会議費	健康寿命を延ばそうシンポジウム研 修旅費		6,660	913,045
			合計	1,200,000	286,955	913,045

収入金額 1,200,000 円

支出金額 286,955 円

差引残額 913,045 円

第5号様式（第4条関係）

政務活動費交付決定通知書

富行第1号の2
平成30年4月1日

富岳会
代表者 佐野 和彦 様

富士宮市長 須藤 秀 忠



平成30年4月1日付けで申請のあった政務活動費の交付について、
下記のとおり決定したので通知します。

記

平成30年度交付決定額 1,200,000円

収 入 伝 票

代表者印

経 理
責任者印

項 目	政務活動費		
金 額	1, 200, 000円		
内 容	政務活動費4人分 佐野和彦・小松快造・松永孝男・手島皓二		
収 入 先	富士宮市長		
収入年月日	平成30年	4月	25日
摘 要			

— 領収書(明細)貼付欄 —

出納簿記入済 印



支 出 伝 票

代表者印

経 理
責任者印

項 目	調査旅費
金 額	211,360円
内 容	(株)北陸精機、金沢市、行政視察のための旅費
目 的	(株)北陸精機 小水力発電の全国的な現状と発電機の性能の向上について 金沢市 オープンデータについて
支 出 先	佐野和彦・小松快造・松永孝男・手島皓二
支払年月日	平成30年 7月 13日
その他特記事項 (参加者・人数等) 佐野和彦・小松快造・松永孝男・手島皓二・以上4名分	

— 領収書等貼付欄 —

出納簿記入済 印



別紙のとおり

旅行命令（依頼）書

起案	平成30年	6月	28日	決裁	平成30年	6月	28日	
承認者	会派代表者印	佐野和彦			予算項目	会議費		
	所属	職(補職)名	氏名		印	備考		
1	富岳会	議員	佐野和彦					
2	〃	〃	小松快造					
3	〃	〃	松永孝男					
4	〃	〃	手島皓二					
5								
用務・目的	(株)北陸精機 小水力発電の全国的な現状と発電機の性能の向上について 金沢市 オープンデータについて							
用務地	宿泊地		出発年月日		帰省年月日			
(株)北陸精機・金沢市	金沢市		平成30年7月17日		平成30年7月18日			
備考								
復 命								
承認者	会派代表者印							
出発年月日	平成30年	7月	17日	帰省年月日	平成30年	7月	18日	
旅行先	(株)北陸精機・金沢市役所							
復命	別紙のとおり							
	鉄道賃	特急料金	急行料金	バス	航空賃(実費)	日当	宿泊料	合計
	J R・私鉄	通常				2日	1夜	
1	19,000	10,400		340		6,600	16,500	52,840
2	19,000	10,400		340		6,600	16,500	52,840
3	19,000	10,400		340		6,600	16,500	52,840
4	19,000	10,400		340		6,600	16,500	52,840
5								

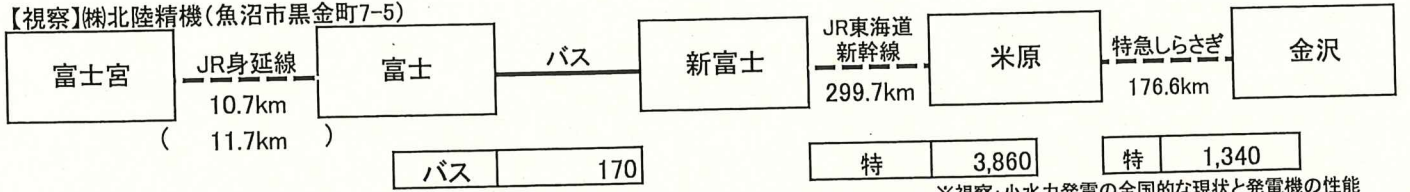
旅費計算書(政務活動費)

富岳会

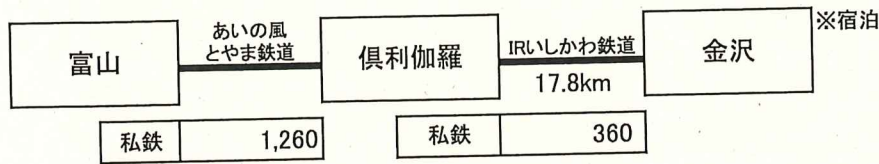
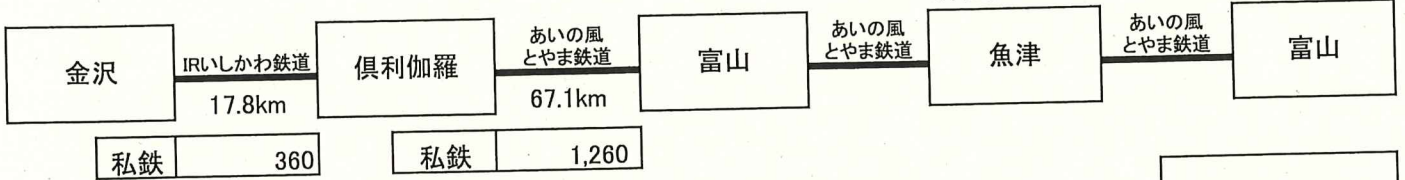
(佐野和彦議員・手島皓二議員・
小松快造議員・松永孝男議員)

● 1 日 目 : 平成30年7月17日 (火)(通常期)

【視察】榊北陸精機(魚沼市黒金町7-5)



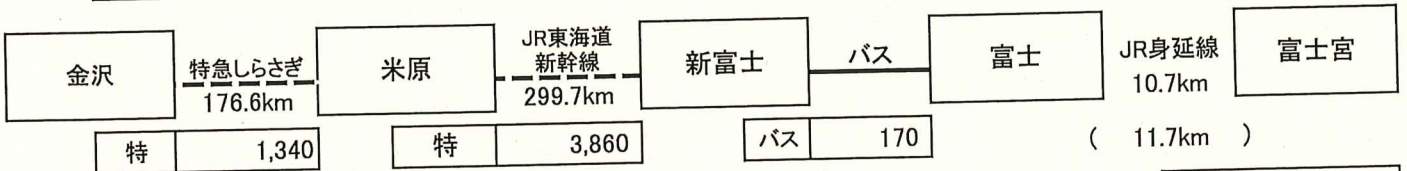
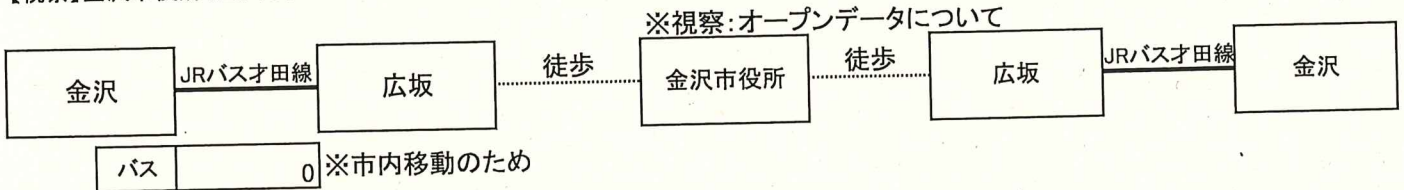
※視察:小水力発電の全国的な現状と発電機の性能の向上について



JR運賃営業キロ	
488.0	Km
7,880	円
バス	170円
私鉄	3,240円

● 2 日 目 : 平成30年7月18日 (火)(通常期)

【視察】金沢市役所(金沢市広坂1-1-1)



JR運賃営業キロ	
488.0	Km
7,880	円
バス	170円
私鉄	

鉄道賃	J R	15,760 円	運賃 A	29,740 円	×	1 人	=	29,740 円
	私鉄	3,240 円						
特急料金	通常	10,400 円	日当	3,300 円	×	2 日	×	1 人
	閑散	円						= 6,600 円
	繁忙	円						
航空運賃	料金(往路)	円	宿泊料	16,500 円	×	1 夜	×	1 人
	料金(復路)	円						= 16,500 円
船賃		円						
車賃(バス)		340 円						
1人往復運賃合計 A		29,740 円	旅費合計	52,840 円/人	×	4 人	=	211,360 円

※H30.7.6 人事課確認済

視察・研修報告書

会派名 富岳会	
視察(研修) 年 月 日	2018年7月17日(火)、18日(水)
視 察 先 (研 修 名)	1. 株式会社北陸精機 (小水力発電の現状について) 2. 石川県金沢市 (オープンデータの取り組みについて)
参 加 者	佐野和彦 松永孝男 小松快造 手島皓二 (記)
視察・研修内容 (概要、特色、 効果、課題等)	<p>I. 訪問先：株式会社北陸精機 (小水力発電機メーカー) 日時：2018年7月17日(火) 代表取締役 谷口貞夫 (敬称略) 取締役常務 南 弘雄 機械開発部長 上田敏信</p> <p>1. 調査事項： ①全国の小水力発電の現状・・・小水力発電施設の先発メーカーとしての全国的な納入実績を通じて得た問題点と将来性の調査。 ②発電機の性能の向上・・・専門メーカーとしての実績と将来の可能性。</p> <p>2. 小水力発電をめぐる地域環境の課題と将来性： 富士宮市はまち全体が傾斜地形で沢も多く、全国1の小水力発電のまちを標榜して、市内11箇所に発電施設が設置されている。しかしその多くはただ規模が小型という旧来型の発電施設であり、こんにち新たに開発された新技術のタイプとは異なる。 小水力発電は環境にやさしいエネルギー源として、あるいは次世代発電源として注目を集め、数年来富士宮市議会でもその開発が議論されて、今秋には小水力発電の全国大会が富士宮市で開催される。 小水力発電は、ハード面では技術的にかなり進んでいるが、市場自体がまだ開発途上にあることから、発電機はどうしても高価格にならざるをえない。 それにもましてソフト面での制約は未解決の問題が多い。 実際に河川に発電機器を設置する際の行政手続きの未整理と煩雑さ、水利用面での農業用水をはじめとする既得権益の壁、売電の将来性、近隣地域の同意などハードルが高いのが現状である。 政府は将来の電源として、水力、化石燃料、原子力、自然エネルギーをあげているが、とくに原子力の開発については不透明な部分が多く、相対的に自然エネルギーへの期待度が高い。 地方自治体にとっては、自然エネルギーの中でとくに小水力発電はコスト・技術面で安価で取組やすく、手短な電源といえ、富士宮市にとっては新たな資源開発のチャンスは大きい。</p>

3. ①株式会社北陸精機の概要：

- ・小水力発電機の製造販売、海外進出の先発メーカー。
- ・本社工場は富山県魚津市。創業 60 年。産業機械メーカー。オーダーメイドによる自社一貫生産方式。従業員 118 名。

② 実績：

- ・小水力発電施設納入実績（2018 年 5 月現在）全国 41 箇所
- ・設置場所・・・農業用水 28 箇所、下水処理施設 10 箇所、工場排水 2 箇所、発電所排水 1 箇所、湧水 1 箇所
- ・設置年 2010 年～2018 年 7 月 24 日

③設備の概要：

- ・出力 0.1KW～49.5KW
- ・マイクロ水力発電装置のタイプ（低落差タイプ、高落差タイプ、用水に吊るすタイプ、小流量高落差タイプ）

④特徴：

- ・発電装置が水路に直接設置できる。
- ・低落差・小流量で発電効率が高い。
- ・構造が簡単（発展途上国での製造が可能）。
- ・装置価格が安く、装置据付が容易。
- ・メンテナンスが容易。
- ・主力は 100KW 以下の発電出力を対象。

4. 富士宮市側の発言と問題提起：

- ・富士宮市は小水力の最適地で土木工事費が少なくてすむ。
- ・理想は 5 年以内の償却で、コストをかけないでやりたい。
- ・公共施設で先ず実績を作るべき。蓄電池の部分が遅れているので開発を進めてほしい。
- ・北陸精機の納入実績をみると殆どが官で、民が少ない。
- ・50KW あればペイでき、候補地は多い。
- ・公共事業の補助金と諸規制が問題。
- ・水利権は国が管理し県が代行している。
- ・農業用水は農水省と土地改良区が管理。富士宮市は土地改良がない。
- ・中央（国）が水利用を理解しても、国から権限を委譲されている県が実質的に利用を制限しようとしている。
- ・市のレベルでの開発には、地域の同意が必要。農業用水のケースが多い。

5. 北陸精機側の説明：

- ・昨年夏富士宮市長が会社を見学した際、市政として小水力発電をやりたい、との発言があった。
- ・10KW であれば 1,000 万円台で納入できる。
- ・日本全国の河川の真ん中に発電設備を設置することはできない。水利用は流路を横出ししなければならない。
- ・環境面での美化の問題と河川の生物保護の問題がある。
- ・会社として小水力発電部門の売り上げは総売り上げの約 1 割である。
- ・コンサルを入れない直販方式である。
- ・ゴミを取り出す装置は必要。簡単にできる。

6. 感想：

- ・北陸精機は受注生産方式の産業機械製造メーカーで北陸を代表する優良中堅企業である。
小水力発電機への開発製造も早く、全国展開から海外市場へも進出している。

- ・工場に隣接する田圃の農業用水路に実験用の発電機を設置して稼働させている。
実際に見学者の手と目で確認ができ、ゴミの取出しや除去なども理解しやすい形になっている。

7. 富士宮市としてのこれからの取組：

- ・現段階では、市場の売電価格との単純な価格競争は難しいが、自然資源利用の電力開発の観点から、公の補助制度を利用して取組む意義は充分にある。
- ・開発に際しての問題点は、ハードよりむしろソフト面にある。
特に水利用に関しては国、地方、地域の縦割り行政が壁となり許認可の取得が極めて難しい。
- ・北陸精機が納入している農業用水利用のケースの殆どは、設置者が公の団体で、民間は3ケースしかない。
下水処理利用のケースも全て公的機関である。
- ・少なくとも、富士宮市が全国一の小水力発電のまちを標榜するのであれば、市と民間の開発者が一体となってソフト面の障害を乗り越える必要がある。
やがて訪れるであろう自然資源利用の電力開発の時代の到来を前に、富士宮市はそのパイオニアとしてのビジネスチャンスが充分にあると考える。 以上

II. 金沢市役所

1. 訪問先：金沢市・都市政策局・情報政策課 ICT 推進室
室長 中島三津男 (敬称略)

情報処理技術者 浅野 大

日時：2018年7月18日(水)

2. 調査事項：

①オープンデータの取り組みについて

3. オープンデータ化のきっかけ：

金沢市長と市民との対話の中で、市が所有するデータを民間で活用したい、という市民からの要望に応じて、オープン化が始まった。

公式アプリ用に整備する市所有施設データをオープンデータ化して平成25年1月に公開を開始した。

4. データオープン化の内容：

・データ件数：3,800件

CCBY・・・約700件(使用可)

上記以外・・・約200件(商用は不可)

・ダウンロード件数・・・約18,000件(2018年4月現在)

・公開ジャンル16：(観光、文化・芸術、生涯学習、くらし、こども、スポーツ施設、福祉・健康、ビジネス、学校、公園、駐車場・駐輪場、ふらっとバス、レンタルサイクルまちなり、避難所、環境、無線LAN)

・データ取得方法：①CSVファイルのダウンロード

②APIによるデータ取得

・イベント情報オープンデータの対象施設

金沢能楽美術館、金沢卯辰山工芸工房、金沢歌舞伎座、

金沢アートホール、金沢湯桶創作の森、金沢市民芸術村、金沢市民文化ホール

5. 画像オープンデータの著作権上の問題点：

- ・契約上はつきり記載がない
- ・契約書がない（保存年限経過）
- ・誰が撮影したかわからない

6. オープンデータを進める民間団体との協働：

- ・IT とデザインの力で地域の問題解決を図る。
- ・エンジニアの他、デザイナーや起業家、映像作家など幅広い人材で構成。

例：ゴミ出しのわかりにくさを、IT でシンプルに解決する。

オープンデータのためのセミナーや自治体の取り組み事例、オープンデータについて考えるワークショップの実施。

オープンデータの作り手の育成コンテスト開催。

全国 TECH サミット金沢 2017 の開催。

7. 質疑応答：

- ・金沢市：従来庁内内で、「市の所有する情報を市民に公開するしないで議論が続けられてきた経緯がある。市民から「個人情報保護を隠れ蓑にして市の情報を提供してくれない」との批判があった。

市長と市民との懇談会での問題の指摘を機会に、国も推進している事業でもあり、個人情報に関わるものの以外の市所有情報は積極的にだす、ことになった。

- ・質問：所有者不明の土地の情報をオープン化する考えはあるか。

回答：現状では考えていない。

- ・質問：アクセスする方法は。

回答：ホームページにアクセスすれば得られる。

- ・質問：利用の内容は。

回答：情報を使って加工する場合はライセンスが必要。

加工後の情報は無料で使用可。

情報は日本語のみ。多言語化はバラバラの状態。

オープンデータ化のための市負担費用（利用コスト、セキュリティコスト、保守コスト）は年間約200万円。

費用対コストは見えにくい。

- ・質問：他市町村の状況はどうか。

回答：「事前に利用申請を要求する」ケースがあるが、これでは「情報公開」にはならないと考える。

- ・質問：メリット（商業利用利益）のある企業は有料でもいいのではないか。

回答：市民満足度を含めてまだ検討していない。

- ・質問：利用の周知方法は。

回答：「オープンデータ」の周知その事が大切。

ICF は年代により理解度が異なる。

市民への周知は、毎週火曜日のテレビ番組、市のホームページ、ツイッター、等による。

周知そのことが課題にはなっている。

・質問：「オープンデータ化」を市としてどのように評価しているか。

回答：「従来の形とは違う形の公報」につながっているのではないかと考えている。

8. 感想：「開かれた市政」という建前論ではなく、市が所有する膨大な情報（文字、デジタル、映像等）を市民に積極的に公開し、商用を含めて市民利用を進めることが大事ではないか。

ともすると、個人情報の保護の名のもとに、どのような市所有のデータがあるのかさえ分からないというのが実態に近い。

例えば、観光用の市所有の写真を市民が借り出し利用して、市民自作の観光用資料を作成してデータ発信することも可能になる。

以上

支 出 伝 票

		代表者印	●	経 理 責任者印	●
項 目	その他の経費				
金 額	3, 0 0 0 円				
内 容	土産代				
目 的	行政視察に伴う、(株)北陸精機、金沢市への土産代				
支 出 先	株式会社 あれこれ屋				
支払年月日	平成30年 7月 16日				
その他特記事項 (参加者・人数等) お茶2箱					
— 領収書等貼付欄 —				出納簿記入済 印	●

0001-7836
富士宮市議会

富岳会

2018年 7月16日月曜日

領 収 証
様

¥3,000-

但し、お茶セット
 株式会社 あれこれ屋
 新富士駅 特産品センタ
 *保管上のお願

財布等で保管戴く場合、印刷面を内側に折って保管願います。




(〒222)

545-64-3366
静岡県富士市川成島641-1

担当者

領収証No

支 出 伝 票

		代表者印		経 理 責任者印	
項 目	会議費				
金 額	15,220円				
内 容	自治体財政研究会 in 丸の内に参加旅費				
目 的	地方財政を学ぶための研修 を受けるため				
支 出 先	手島 皓二				
支払年月日	平成30年 8月 17日				
その他特記事項 (参加者・人数等)					
— 領収書等貼付欄 —				出納簿記入済 印	

別紙のとおり

旅行命令（依頼）書

起案	平成30年 8月 10日	決裁	平成30年 8月 15日						
承認者	会派代表者印	佐野和彦	予算項目 会議費						
	所属	職(補職)名	氏名	印	備考				
1	富岳会	議員	手島 皓二						
2									
3									
4									
5									
用務・目的	自治体財政研究会 in 丸の内に参加。								
	用務地	宿泊地	出発年月日	帰省年月日					
	東京都千代田区		平成30年8月21日	平成30年8月21日					
	備考								
復 命									
承認者	会派代表者印								
出発年月日	平成30年 8月 21日	帰省年月日	平成30年 8月 21日						
旅行先	東京都千代田区丸の内3-1-1 千葉商科大学 丸の内サテライト								
復命	別紙のとおり								
	鉄道賃	特急料金	急行料金	バス	航空賃(実費)	日当	宿泊料		合計
	J R・私鉄	繁忙				1日			
1	5,180	6,400		340		3,300			15,220
2									
3									
4									
5									

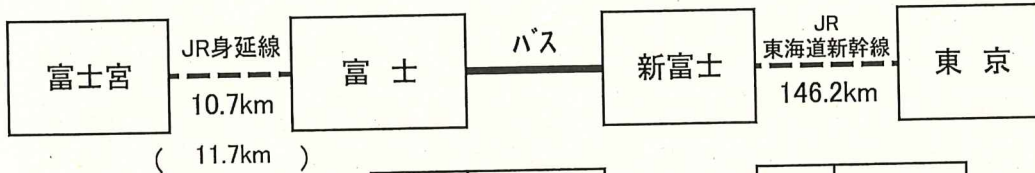
旅費計算書(政務活動費)

会議費

参加者: 富岳会
手島皓二議員

研修:「自治体財政研究会」in丸の内
会場: Galleria商. Tokyo(千葉商科大学丸の内サテライト)
(東京都千代田区丸の内3-1-1)

● 平成30年8月21日(火) (往復) ※繁忙期



バス 170

特 3,200

JR運賃営業キロ	
	157.9 Km
	2,590 円
バス	170 円

鉄道賃	JR	5,180 円	運賃 A	11,920 円 × 1 人 = 11,920 円
	私鉄	円		日当
特急料金	通常	円		
	閑散	円		
航空運賃	繁忙	6,400 円	宿泊料	0 円 × 0 夜 × 1 人 = 0 円
	料金	円		
車賃(バス)		340 円		
		円		
1人往復運賃合計 A		11,920 円	旅費合計	15,220 円/人 × 1 人 = 15,220 円

※旅費計算表に基づく




参加料: 20,000円

研修報告書

会派名	富岳会
-----	-----

研 修 年 月 日	平成 30 年 8 月 2 1 日
研 修 名	「自治体財政研究会」IN 丸の内
参 加 者	手島皓二
研修内容 (概要、特色、 効果、課題等)	<p>概要：①千葉商科大学大学院 吉田寛教授による『こどもにツケをまわさない』 ②元麻布大学 非常勤講師 野口理佐子氏による『地方財政にやさしい環境政策』 ③元我孫子市長 福島浩彦氏による『本当に自治が必要となる』について、講義を受けた。</p> <p>内容：①について、会計の語源から『会ってその功績を計る』良い業績を上げたものは褒美を与え、業績が悪ければ責めを負う。よって、決算においてその業績を評価していく必要性があるのだと。また、決算の表示も市民の便益に供したものと、市長のものと分けて評価をすべきであると主張していた。 ②については、新設される環境税で本当に自然環境は良くなるのかという議論を投げかけた。 ③については、人口減少時代にむけた自治のあり方につて経験をもとに、国任せでないオリジナリティーをだしていく大切さ大変さの持論を展開した。</p> <p>課題：それぞれの講師の持論を拝聴したが、こどもたちにツケを残さないことの意味は、無責任なツケを次世代に回さないことであると思う。それには議会が住民との合意形成に向け役割を発揮することが重要だと感じた。</p>

支 出 伝 票


		代表者印		経 理 責任者印	
項 目	会議費				
金 額	20,000円				
内 容	「自治体財政研究会 i n 丸の内」参加費				
目 的	新たな視点に立った「財政再建」の課題についての研究会に参加するための負担金				
支 出 先	自治体財政研究会 会計 丸山陽子				
支払年月日	平成30年8月21日				
その他特記事項 (参加者・人数等) 手島皓二					
— 領収書等貼付欄 —				出納簿記入済 印	

富岳会 領 収 証
手島皓二 様

¥20,000.—

但し 自治体財政研究会参加費として

平成30年8月21日 上記正に領収いたしました

東京都港区赤坂1丁目3番15号
 第2中田ビル7階
 自治体財政研究会
 会計 丸山 陽子 

支 出 伝 票

代表者印	経 理 責任者印
------	-------------

項 目	資料購入費
金 額	1, 8 7 5 円
内 容	書籍代
目 的	町おこし調査研究のため
支 出 先	富山県中新川郡舟橋村役場
支払年月日	2 0 1 8 年 1 2 月 2 6 日 (水)
その他特記事項 (参加者・人数等) 書籍「奇跡の村・舟橋」1, 7 0 0 円 送料 1 7 5 円	

— 領収書等貼付欄 —

出納簿記入済 印	
----------	--


振替払込請求書兼受領証

記載事項を訂正した場合はその箇所に訂正印を押してください。	口座記号番号	[Redacted]
	加入者名	[Redacted]
	金額	千 百 十 万 千 百 十 円 ¥ 1 8 7 5
	二 依 頼 人	富 士 市 議 会 富 岳 会 様
	料 金 備 考	日 附 印 30-12-26 六 本 木 駅 前 郵 便 局 [Redacted]




この受領証は、大切に保管してください。

別紙

領収書等貼付用紙

項目	資料購入費	内容	書籍代
領収書等貼付欄			
<p style="text-align: center;">請求書</p> <p style="text-align: right;">平成30年12月26日</p> <p>富士宮市議会富岳会 御中</p> <p>下記の通り請求いたします。</p> <p style="text-align: center;"><u>金1,875円</u></p> <p>(内訳) 書籍『奇跡の村・舟橋 日本一小さな村の人口は、なぜ倍増したか?』 1冊 税込1,700円、送料175円</p> <p>〒930-0295 富山県中新川郡舟橋村佛生寺 55 番地 富山県中新川郡舟橋村 村長 金森 勝雄</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> (振込先)  </div>			

支 出 伝 票

		代表者印		経 理 責任者印	
項 目	会議費				
金 額	28,840円				
内 容	道の駅災害時支援事業研修会シンポジウムの旅費				
目 的	災害時、道の駅をどのように活用できるかの研修 を受けるため				
支 出 先	佐野和彦・松永孝男				
支払年月日	平成31年 1月 15日				
その他特記事項（参加者・人数等） 佐野和彦・松永孝男 以上2名分					
— 領収書等貼付欄 —				出納簿記入済 印	

別紙のとおり

旅行命令（依頼）書

起案	平成31年 1月 10日	決裁	平成31年 1月 15日						
承認者	会派代表者印	佐野和彦	予算項目 会議費						
	所 属	職（補職）名	氏 名	印	備 考				
1	富岳会	議員	佐野 和彦						
2	〃	〃	松永 孝男						
3									
4									
5									
用務・目的	道の駅災害時支援事業研修会シンポジウムへの参加。 災害時、道の駅をどのように活用するかの研修。								
	用 務 地	宿 泊 地	出 発 年 月 日	帰 省 年 月 日					
	東京都千代田区		平成31年1月16日	平成31年1月16日					
	備 考								
復 命									
承認者	会派代表者印								
出発年月日	平成31年 1月 16日	帰省年月日	平成31年 1月 16日						
旅行先	東京都千代田区 東京国際フォーラム								
復命	別紙のとおり								
	鉄道賃	特急料金	急行料金	バス	航空賃 (実費)	日 当 1日	宿泊料		合 計
	J R・私鉄	通・閑・繁							
1	5,180	5,600		340		3,300			14,420
2	5,180	5,600		340		3,300			14,420
3									
4									
5									

旅費計算書(政務活動費)

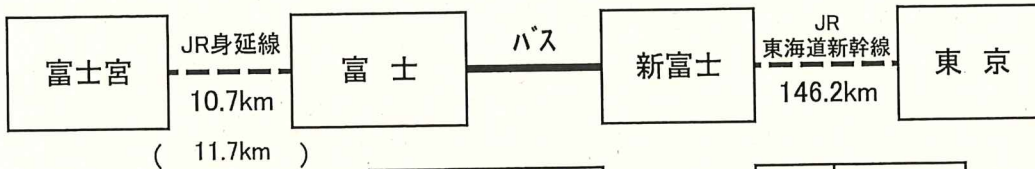
会議費

参加者: 富岳会
佐野和彦議員・松永孝男議員

研修: 道の駅災害時支援事業研究会シンポジウム

会場: 東京国際フォーラム G610
(東京都千代田区丸の内3-5-1)

● 平成31年1月16日(水) (往復) ※閑散期



バス	170
----	-----

特	2,800
---	-------

JR運賃営業キロ	
	157.9 Km
	2,590 円
バス	170 円

鉄道賃	JR	5,180 円	運賃 A	11,120 円 × 1 人 = 11,120 円
	私鉄	円		日当
特急料金	通常	円		
	閑散	5,600 円		
	繁忙	円		
航空運賃	料金	円	宿泊料	0 円 × 0 夜 × 人 = 0 円
		円		
車賃 (バス)		340 円		
		円		
旅費合計			14,420 円/人 × 2 人 = 28,840 円	

※旅費計算表に基づく

研修報告書

会派名 富岳会

研 修 年 月 日	平成31年1月16日
研 修 名	道の駅災害支援事業研究会シンポジウム
参 加 者	松永孝男 佐野和彦
研修内容 (概要、特色、 効果、課題等)	<p>第1部 災害時支援研究会紹介 災害時支援研究会における取り組み 道の駅を防災拠点として活用できるよう、産・官・学の連携を図り、救援拠点や避難場所として機能させるよう災害対策支援デスクの設置など、新たな取り組みについて研究し実践する。 災害時支援事業研究会への参加斡旋。</p> <p>第2部 研究会発表 1) 事例報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福島県磐梯町長 五十嵐源市 道の駅拡張構想—民間のプロポーザルで温泉施設とホテルがあり、災害時には避難所として使える新しい道の駅整備。 ・熊本県阿蘇市長 佐藤義興 熊本自身のと看道の駅が果たした役割 <ol style="list-style-type: none"> 1. 緊急避難所として被災者の受け入れ 2. 復旧支援拠点—自衛隊・警察・消防などの前線基地 3. 情報発信拠点—災害情報、道路情報、う回路情報 4. 支援物資集積—食料、飲料水、生活支援物資 5. 生活支援拠—厨房、物販、入浴施設 ・神奈川県箱根町長 山口昇士 箱根山の噴火と地震から外国人観光客を守るため、道の駅などで多言語による放送、掲示を実施。 ・山崎製パン株式会社 市場開発営業部課長 辻 泰敏 食品メーカーの責任として災害時、緊急時の救援食料の提供。 道の駅での事業展開—ヤマザキコンビニ25店舗、ヤマザキベーカリー24店舗 ・磐田食品株式会社 常務取締役 森本芳樹 ローリングストックとしてロングライフ食を道の駅に備蓄すると共に、自宅使用や災害備蓄用として道の駅で販売。 ・東京海上日動リスクコンサルティング株式会社 ビジネスリスク本部 本部長 亀崎 洋 道の駅の3つの機能である「休息機能・地域との連携機能・情報発信機能」、災害時にはこれらの機能を活用して支援活動の拠点とする。

・株式会社フェザンレーヴ 上席執行役員 山崎勢之助

常に持ち歩く災害用ポーチ「常時携帯バックⅡ」、在宅避難時の断水に備える「災害イツモ断水時ボックス」の開発・販売。

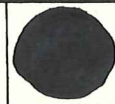
2) 道の駅における災害時支援に関する提言

近年、地震・津波・台風・豪雨などの自然災害が頻発している。こうした大災害は住宅地や道路に甚大な被害を及ぼし、日常生活や物流、産業等に大きな影響を与えている。このような大災害に際し「道の駅」はいつでも利用可能な駐車場とトイレを備える公的施設であり、比較的交通の便が良い場所に立地している場合が多く、ドライバーにも地域住民にも認知度の高い施設であることから災害時の一時避難所として活用されることが多くなってきた。このような特性と公設民営の利点を生かし、行政と「道の駅」の共助の仕組みを構築して「道の駅」が防災拠点としての機能をよりよく発揮できるよう、「産・官・学」が連携し、民間企業の資源やノウハウを活用していくことが重要である。

所感 富士宮市でも災害時支援事業研究会に参加し、「あさぎり道の駅」に防災拠点としての機能を整備していく必要がある。

支 出 伝 票

代表者印

経 理
責任者印

項 目	会議費
金 額	6,660 円
内 容	健康寿命を延ばそう！シンポジウム - 社会健康医学の「知と人材の集積拠点」が 排出する新たな人材 - に参加するための旅費
目 的	シンポジウムで学んだことを当市に生かすため。
支 出 先	佐野和彦・松永孝男
支払年月日	平成31年 3 月 12 日
その他特記事項（参加者・人数等） 佐野和彦・松永孝男 以上2名分	

— 領収書等貼付欄 —

出納簿記入済 印



別紙のとおり

旅行命令（依頼）書

起案	31年 3月 4日			決裁	31年 3月 4日				
承認者	会派代表者印	●		予算項目	会議費				
	所属	職(補職)名	氏名		印	備考			
1	富岳会	議員	佐野 和彦		●				
2	富岳会	議員	松永 孝男		●				
3									
4									
5									
用務・目的	「健康寿命を延ばそう！シンポジウム - 社会健康医学の「知と人材の集積拠点」が排出する新たな人材 -」に参加。 シンポジウムで学んだことを当市に生かすため。								
用務地	宿泊地		出発年月日		帰省年月日				
静岡市駿河区			31年3月15日		31年3月15日				
備考									
復 命									
承認者	会派代表者印	●							
出発年月日	31年 3月 15日			帰省年月日	31年 3月 15日				
旅行先	静岡市駿河区南町18-1 ホテルセンチュリー静岡5階センチュリールーム								
復命	別紙報告書のとおり								
	鉄道賃	特急料金	急行料金	バス	航空賃(実費)	日当	宿泊料		合計
	J R・私鉄	通・閑・繁				半日	夜		
1	1,680					1,650			3,330
2	1,680					1,650			3,330
3									
4									
5									

旅費計算書(政務活動費)

会議費

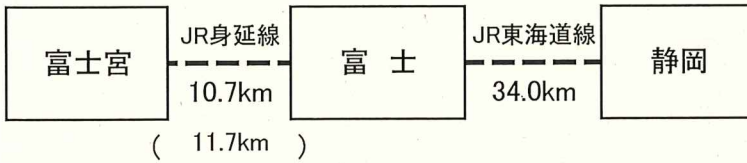
参加者: 富岳会

佐野和彦議員・松永孝男議員

研修: 健康寿命をのばそう! シンポジウム -社会健康医学の「知と人材の集積拠点」が輩出する新たな人材-

会場: ホテルセンチュリー静岡(5階センチュリールーム)
(静岡県静岡市駿河区南町18-1)

● 平成 31 年 3 月 15 日(水) (往復)



JR運賃営業キロ	
	45.7 Km
	840 円
バス	0 円

鉄道賃	J R	1,680 円	運賃 A	1,680 円 × 1 人 = 1,680 円
	私鉄	円		日当
特急料金	通常	円		
	閑散	円		
	繁忙	0 円		
航空運賃	料金	円	宿泊料	0 円 × 0 夜 × 1 人 = 0 円
		円		
車賃 (バス)		円		
		円		
1人往復運賃合計 A		1,680 円	旅費合計	3,330 円/人 × 2 人 = 6,660 円

※旅費計算表に基づく

研修報告書

会 派 名 富 岳 会

研 修 年 月 日	平成 3 1 年 3 月 1 5 日
研 修 名	健康寿命をのぼそう！ シンポジウム
参 加 者	松永孝男 佐野和彦
研修内容 (概要、特色、 効果、課題等)	<p>第1部 基調講演</p> <p style="margin-left: 20px;">医学と社会をつなぐ知の拠点 「京大 SPH」が育てるプロフェッショナル</p> <p style="margin-left: 20px;">講師 京都大学大学院医学研究科 副研究科長・社会健康医学系専攻長 健康情報学分野教授 中山健夫</p> <p>内容 京大 SPH (School of Public Health=公衆衛生大学院) の目的及び研究</p> <p style="margin-left: 20px;">目的：共同社会の組織的な努力と、情報に基づく選択によって疾病を予防し、寿命の延長、健康増進を図る。</p> <p style="margin-left: 20px;">研究：疫学の見地から多様な人間を集団として見ることで、病気や健康に関する出来事の「因果関係」を解析し、予防や治療に役立てる科学。</p> <p>第2部</p> <p style="margin-left: 20px;">1. 県の発表</p> <p style="margin-left: 40px;">社会健康医学大学院大学の設置に係る基本構想の概要 静岡県健康福祉部長 池田和久</p> <p style="margin-left: 20px;">社会健康医学の拠点となる大学院大学を設置し、健康と医療、環境を統合する科学的な分析を通じ、県民の健康寿命の延伸を図る。社会健康医学とは、直接病気の治療を研究する分野ではなく、病気を予防する又は病気にならないような地域・環境を研究する新たな学問分野</p> <p style="margin-left: 20px;">2021年4月の開学を目指す。入学定員1学年10人程度</p> <p style="margin-left: 20px;">2. 座談会</p> <p style="margin-left: 40px;">社会健康医学を学んだ「新たな人材」は県民の健康寿命延伸をどう担うのか？</p> <p style="margin-left: 40px;">静岡県立総合病院参与兼リサーチサポートセンター長 (京都大学名誉教授) 宮地良樹</p> <p style="margin-left: 40px;">京都大学大学院医学研究科 副研究課長 中山健夫</p> <p style="margin-left: 40px;">京都大学大学院医学研究科附属ゲノム医学センター センター長 松田文彦</p> <p>所感 病気を予防し、健康寿命をのぼす研究は医療費の削減にもつながる大変重要な取り組みである。社会健康医学大学院大学が開校したら富士宮市でも職員を入校させ、健康増進のための人材を育てることが、地域包括ケアを推進する上でも必要になると考える。</p>